

バスで送迎、ジュース無料…受給者困り込み

診療所生活保護頼み

生活保護受給者は大歓迎。

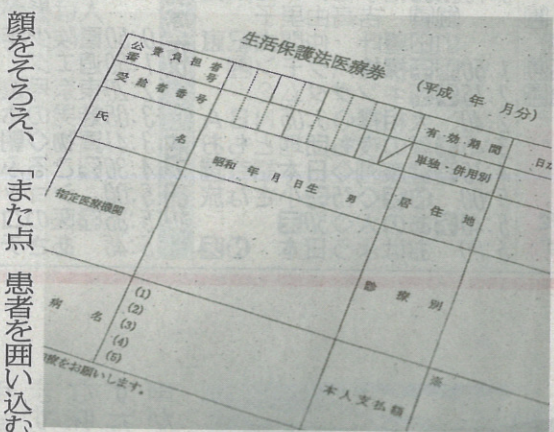
診療報酬詐欺事件の舞台となった大阪市西成区では、受給者を巡る不透明な診療報酬請求が後を絶たない。受給者を困り込もうと、熱心に勧誘する医療機関も少なくない。大阪市は対策を強化するが、不正を一掃するための道は険しい。

【津久井達、遠藤浩二、藤頭一郎】

西成

大阪府警は今年9日、受給者の架空診療などで診療報酬を詐取したとして、西成区の医療法人元理事長の医師、小松明寿容疑者(60)を詐欺の疑いで逮捕した。捜査関係者によると、「受給者は医療費が無料だから診療所で架空診療などを繰り返して、約3400万円の診療報酬を不正受給したとされている。小松容疑者は1997年に西成区内で診療

腰痛で通院していた受給者の男性(55)によると、あいらん地区の診療所の待合室には毎日、同じ受給者数人が



大阪市が生活保護受給者に配布している医療券。受給者は受診の際に医療機関で提示することになっている

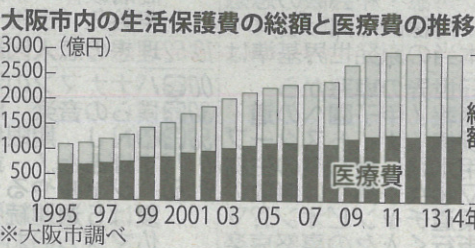
「うちに来てよ」。あいらん地区の公的医療施設の前では、ある医療法人の関係者が受給者に次々と声をかけていた。応じた人はマイクロバスで西成区内の診療所に運ばれた。この法人が経営する診療所には、ニシキゴイが泳ぐ庭園や最新の医療設備を備えたり、ビリールームがあった。経営者は言った。「受給者は言う通りの治療男性(71)は「無料でジュースが飲める自動販売機もあった。居心地

が良くて毎日通た」と打ち明けた。最近では、あからまな勧誘活動を控えるようになったという。

「生活保護 大歓迎。軒先にこんなのほりを立て、冬には使い捨てカイロなどを無償で配り、受給者を誘い込む診療所もあった。西成区のある病院経営者によると、行政の目が厳しくなり、目立った勧誘活動は減る傾向にあるが、受給者頼みの医療機関は多い。

大阪市 保護費300億円 4割が医療費

全国の自治体で最多の約15万人の生活保護受給者を抱える大阪市。2012〜13年度、不正が疑われた市内48の医療機関に計2億4500万円の診療報酬の返還を求めたが、水山の一角とされる。不正の手口で多いのは①不要な治療や投薬をする過剰診療②実際にはしていない治療行為の費用を請求する架空診療など。医療費負担が免除されて



※大阪市調べ

え・かみじよつえ